

FINESPEC 2.4G



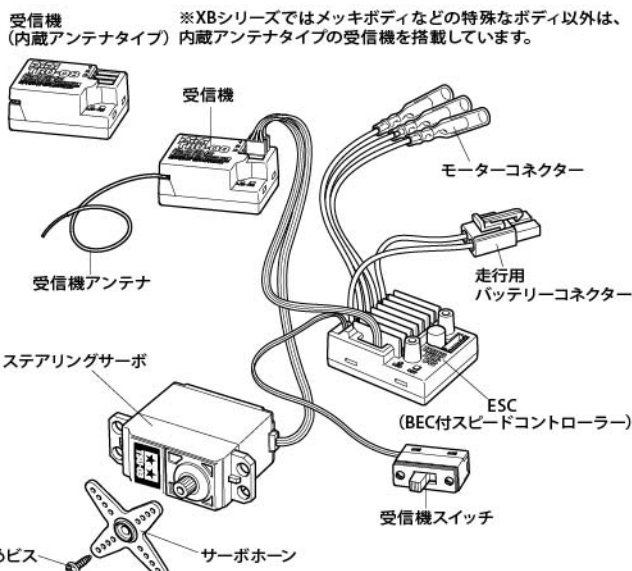
タミヤRCシステム

ファインスペック2.4G 2チャンネルRCプロポセット

●この度はファインスペック2.4Gをお買い上げいただきましてありがとうございます。このシステムは2.4GHz帯スペクトラム拡散方式を採用した製品のため、従来のようなクリスタルがないので、バンドを気にすることなく同時走行が可能です。お買い上げのセットの内容をよくご理解頂き、お使いの前に本取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになった後も大切に保管し、必要な時にお読み頂き、安全にご使用ください。

●お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止し、安全に楽しく使用していただくために、注意点を必ずお守りください。なお、取り扱い説明図中のこのマーク(△)は重要な注意事項です。必ず守ってください。

ファインスペック2.4G



●走行させる前に保護者の方といっしょに説明書をよくお読みください。

●小さな子供のいる場所での操作はしないでください。

●プロポセットの分解、改造は絶対にしないでください。

●わからないところは、保護者の方やRCに詳しい人に教えてもらおう。



2.4GHzシステムを安全にご利用いただくための基本的な注意事項

○ご使用の際は製品に付属の取扱説明書や注意書をよく読んでください。

○2.4GHzはRC(ラジオコントロール)専用の周波数ではありません。この周波数帯は電子レンジ、無線LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ、ゲーム機や携帯電話のBluetooth、VICSなどの近距離通信に利用されるISM(産業・科学・医療)バンドと共用されているため、都市部では2.4GHzシステムの操縦レスポンスが低下する可能性があります。また、アマチュア無線、移動識別用構内無線にも使用されているため、これらの影響に注意して使用してください。なお、既設の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の送信を停止し、干渉回避対策を実施してください。

○走行場所では、送受信機に影響を与える可能性のある機器の使用は最小限にし、事前に安全性を確認するようにしてください。また、施設の管理者の指示に従ってください。

○同一走行場所では、同時に使用する2.4GHzプロポの台数を15台以内にしてください。同時に使用される2.4GHzのプロポの台数がわかるように施設のボード等を利用してください。

○建物や鉄塔、樹木などの後ろを走行させ、電波の到達方向を遮蔽すると、操縦レスポンスが低下したり操縦不能になる場合があります。常に目視で確認できる範囲で走行をしてください。

○日本国内では、電波法に基づく技術基準適合証明試験を受け、認証番号を記載した登録証明ラベルが外から見える場所に貼られているプロポが使用できます。ラベルが外がたり、汚れたりしないでください。

○海外からの輸入品等の場合で、上記登録証明ラベルが貼られていないプロポの使用は電波法違反になります。

○日本国外では使用できません。各国の電波法や、規制等に抵触する可能性があります。

2.4GHz送信機操作時の注意事項

○送信機の内蔵アンテナには構造上、電波の弱い方向があります。(P2を参照して注意してください。)

○走行中は送信機のアンテナ部(内蔵)を握らないでください。また送信機のアンテナ部に導電性の板やステッカーなどを貼らないでください。

★電波の出力が弱くなるため、受信距離が短くなり危険です。○他の2.4GHzシステム等からのノイズの影響により電波が届かなくなる場合があります。ご使用前の動作テストや、使用中にこのような状況がある場合は使用を中止してください。

2.4GHz受信機搭載時の注意事項

○受信機のアンテナは、できるだけ金属や地面から離し、金属等の電波の遮蔽物がないようにして地面と垂直になるように搭載してください。

○アンテナは保護のために必ずアンテナパイプに入れ、先端を外部に出さないようにしてください。

○受信機のアンテナを曲げたり、長さを縮めたり、切断しないでください。

○振動が大きい場所、電気ノイズ・機械ノイズが多い場所への搭載は避けてください。

○強い衝撃や振動を与えないでください。厚手の両面テープなどを使用し防振対策をおこなってください。

○アンテナを無理に引っ張らないでください。受信機内部の故障の原因となります。

これだけは守ろう!

《スイッチの入れ方》

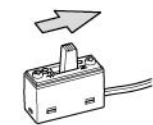
1. ON



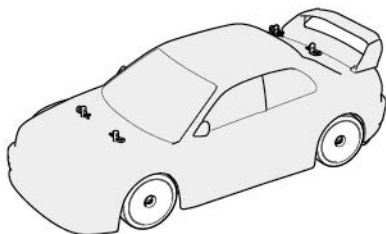
送信機スイッチ



2. ON

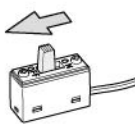


受信機スイッチ

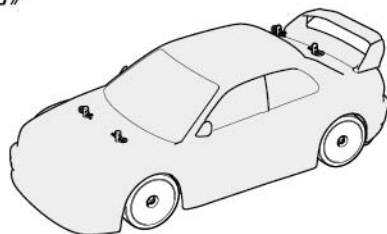


《スイッチの切り方》

1. OFF



受信機スイッチ



2. OFF



送信機スイッチ



各部の名称

《送信機》

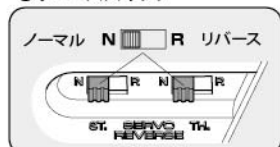
●送信機スイッチ

★上側に動かすと電源が入り、下側にすると切れます。

●ステアリングトリム

●スロットルトリム

●リバーススイッチ



★ステアリングサーボの回転方向を変えたり、車の前進・後進を逆にするスイッチです。Nは正転、Rは逆転、STはステアリングサーボ、THはスロットルを表します。シャーシの説明図にしたがって、リバーススイッチの向きを合わせてください。完成品(XB)は出荷時の設定でお使いください。

ON
OFF

●ステアリングホイール

●スロットルトリガー

●LEDバッテリーインジケータ

★電池電圧のレベルを表示します。点灯で正常、点滅で交換サインです。ランプが点滅している時は電圧が弱く危険な状態です。すぐに新品電池と交換してください。新品電池にしても点灯しない時は、極性まちがいや接触不良をチェックしてください。

★電波の弱い方向

●内蔵アンテナ

★この部分にアンテナが内蔵されています。図の矢印の方向が車体に向かないような状態で操作してください。電波の強さはアンテナの横方向が最大となります。送信機は出来るだけ立てた状態で操作してください。

●ファンクションスイッチ

★受信機とのペアリングに使用します。

保証書

製品名 **ファインスペック 2.4G RCプロポセット**

保証期間 ●お買上時から6ヶ月 (180日)

お買上日/平成 年 月 日

お名前

ご住所

電話番号 ()

販売店印

※販売店印とお買上年月日の記入が無いものは無効

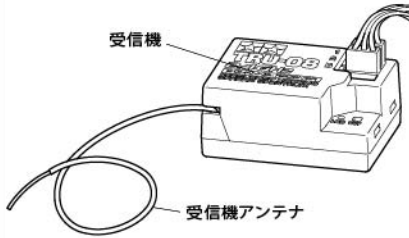
《受信機》

送信機からのコントロール電波を受け、パルス信号に変換して、サーボ・ESCへ送ります。

●受信機アンテナ

送信機からの電波を受信します。

⚠アンテナ線は走行用バッテリーパックやモーター、サーボのリード線などのノイズ源から離して配置してください。また金属やカーボンなどの電気を通す物に接触しないようにしてください。

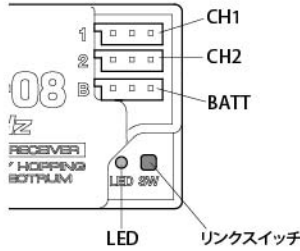


●リンクスイッチ
ペアリングを行うときに使用します。

●LED

受信機の状態を表示します。信号が受信できている場合は点灯、受信できていない場合消灯します。

	LED
送信機OFF	消灯
受信	赤点灯

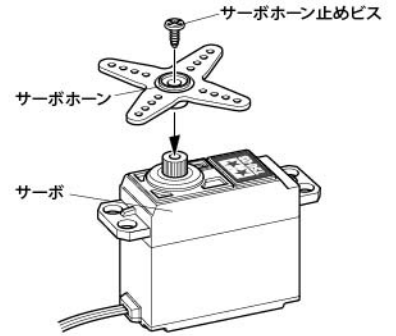


《サーボ》

受信機からのパルス信号を受け、RCカーのステアリングを動かす役をします。

《サーボホーン》

サーボの動きを直接RCカーのステアリングやエンジン・スロットルレバーに伝える役をします。
★ご使用になるRCカーに合わせてお使いください。



⚠アンテナ部分(先端から約3cm)を保護するためにアンテナパイプに必ずアンテナを入れ先端を外に出さないでください。ただし、金属やカーボンのアンテナパイプは使用しないでください。

⚠アンテナ部分・同軸ケーブル部分は絶対に切断したり、束ねたりしないでください。またアンテナ部分は絶対に折り曲げないでください。同軸ケーブル部分も無理に折り曲げないでください。受信距離が短くなり危険です。

○CH1:ステアリングサーボのコネクターを接続します。

○CH2: BEC付ESCのコネクターを接続します。

★TEU-101 BKやTEU-104BKは使用できません。

○BATT: 受信機用電源に接続します。

★通常、電動カーでは使用しません。

⚠受信機 (TRU-08) に使用する電源は必ずBEC付きESCの電源、または6Vバッテリーを使用してください。

《ESC》

電動RCカーの前、後進のスピード、停止、ブレーキをコントロールします。

別紙ESC用説明図をご覧ください。

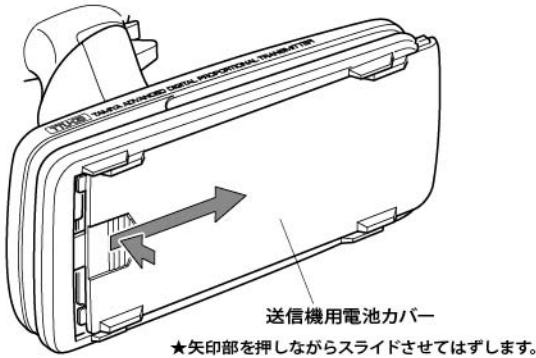
★BEC無しESCは受信機やサーボ等の故障に繋がるため使用しないでください。

《受信機スイッチ》

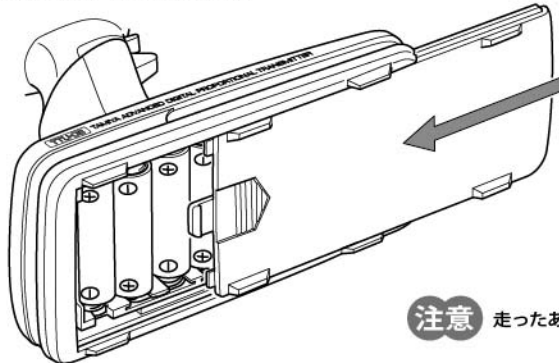
受信機の電源をオン・オフするスライドスイッチです。

送信機の電池の入れ方

1. ●送信機の底面の電池カバーをはずします。



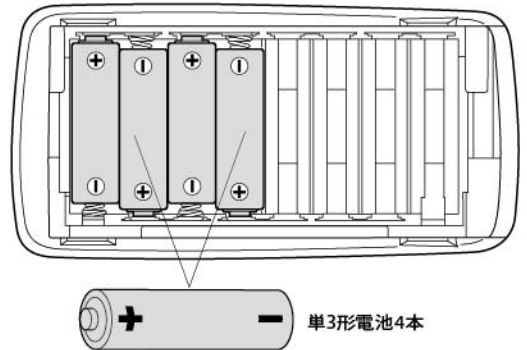
3. ●電池カバーを取り付けます。



★電池交換をするとき、すべて新しい電池にしてください。

1本でも減った電池があると、発信する電波が弱くなってコントロールが効かなくなります。また、種類の違う電池を混ぜて使うこともしないでください。

2. ●電池ボックス底面に描かれた電池の向きにあわせて電池を入れてください。



★電池一本につき1.5Vを超えるものは使用しないでください。
★アルカリ電池推奨。

注意 走ったあとは、必ず電池を取り外してください。

●ビギナーモード

初心者の方の練習用として、最高速を遅くできるビギナーモードが用意されています。

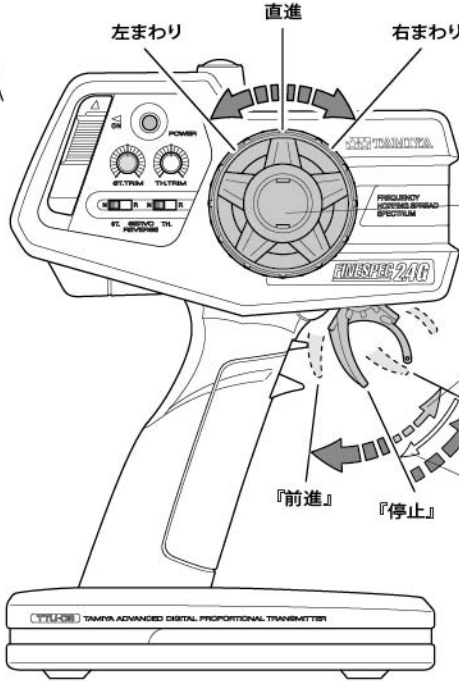
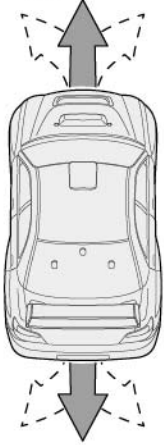
★前進時の最高速が遅くなります。ブレーキ量、ステアリング切れ角は変わりません。

●セット方法: 送信機のスイッチをONにするとき、ステアリングホイールを左にいっぱい切った状態で送信機のスイッチを入れることでビギナーモードにセットできます。

送信機のスイッチをOFFにするとのノーマルモードに戻ります。

注意: ESCのセットアップは変更しないでお使いください。

コントロールのしかた



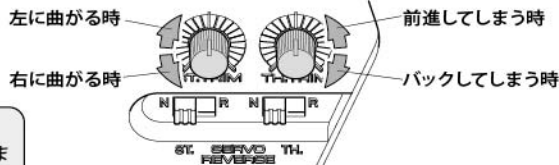
※受信機の電源を入れても受信機のLEDが消灯している場合は次のことをチェックしてください。

1. 受信機のバッテリー残量と極性。
2. ペアリングの再設定 (P5参照)。

●ステアリングホイール
ホイールを左右に回して車の方向を変えます。回す程度に応じてハンドルの切れ角が変わり、真ん中(中立、ニュートラル)では直進します。

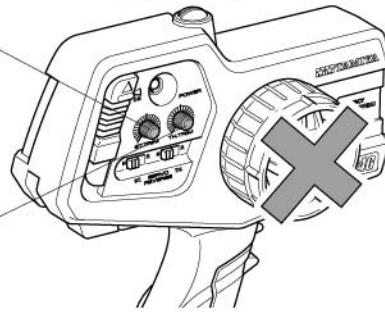
●スロットルトリガー
車の『停止』『前進』『後進』のスピードコントロール、そして『ブレーキ』に使います。真ん中(中立、ニュートラル)で停止、トリガーを引くほど前進スピードが速くなります。『前進側』から『後進側』にトリガーを動かすとブレーキがかかります。車を後進させるにはこの状態(ブレーキがかかっている状態)からいったんニュートラルに戻し、もう一度トリガーを後進側に動かします。

トリムの調整



●ステアリングトリム
ステアリングホイールを操作しないで、車がまっすぐ走らないときは、ステアリングトリムを回して調整します。車を走らせ、左に曲がるようなら、トリムを右に回し、また、右に曲がるようなら、トリムを左に回してまっすぐ走るように調整します。

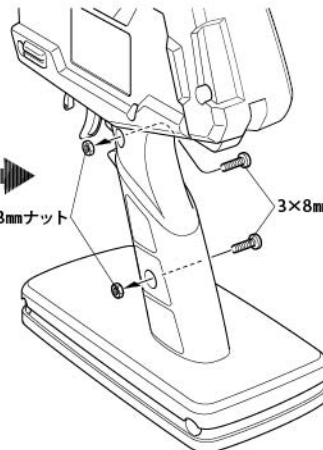
●スロットルトリム
スロットルトリガーを操作しないのに車が停止しない場合は、スロットルトリムを回して調整します。RCカーが前進する時は、トリムを左に回し、後進する時は、トリムを右に回して停止するように調整します。



●グリップカバー、トリガーカバー

★送信機のグリップとスロットルトリガーは図のように変更することができます。自分に合った状態を選んでお使いください。

●グリップカバーを外すことでグリップを細くできます。



●スロットルトリガーがバックに届きにくい場合は、付属のカバーを組み込むことで操作がしやすくなります。

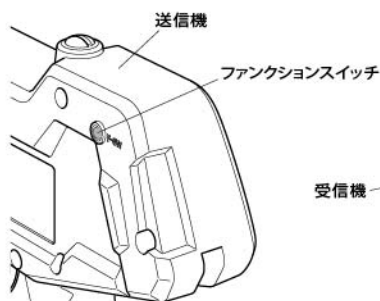


★外した部品は大切に保管してください。

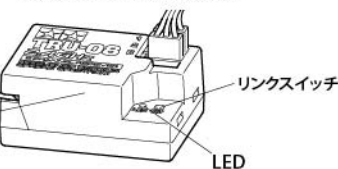
●ペアリング・受信機にIDを読み込ませる方法（出荷時にはペアリング済みです。）

以下の操作により、送信機のID番号が受信機に読み込まれます。このID番号の識別により2.4GHzシステムは他の送信機からの信号を受け付けません。

1. 送信機と受信機を1m以内に近づけます。
2. 受信機のリンクスイッチを押しながら受信機の電源をONにします。このときLEDは赤色の点滅をします。
3. 次に送信機背面のファンクションスイッチを押しながら、送信機の電源をONにします。このとき送信機のLEDバッテリーインジケータランプが点滅します。
4. ペアリングが成功すると受信機のLEDが赤色の点灯になり完了です。



5. 送信機のLEDバッテリーインジケータランプは点滅を続けています。一度、送受信機の電源を入れなおして受信機が確実に動作することを確認してからご使用ください。



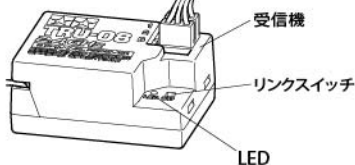
⚠ モーターが接続されている状態で、送信機と受信機のペアリングを行わないでください。

●フェイルセーフの設定方法（CH2のみ有効になる）

この機能は受信機が送信機からの正常な信号を受信できなくなったときに、スロットルを予め設定した位置に移動させ、車の暴走等を防ぐための機能です。送信機からの信号を再度受信できた場合、フェイルセーフが解除されます。（出荷時にはOFFの設定になっています。）

2. LEDが点滅し始めたら、リンクスイッチを離してください。点滅し始めてからLEDが6回点滅して、フェイルセーフが有効となり、通常動作にもどります。

⚠ 走行前にフェイルセーフ機能が作動する事を確認してください。その場合には、車体を台に乗せて走らないようにして、送信機スイッチをOFFにして、設定した状態を確認してください。



設定方法

1. 送受信機の電源を入れた状態で、スロットルリガーを設定したい位置にして、受信機のリンクスイッチをLEDが点滅するまで押します。

フェイルセーフOFF

★フェイルセーフを解除するには、再度ペアリングを行ってください。

注意！

走行させる時の手順

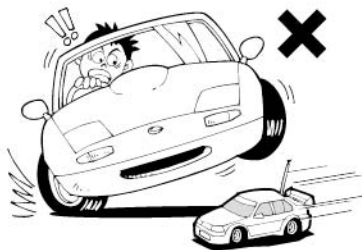
1. 送信機用電池をセットする。
2. 送信機のスイッチを入れる。（LEDランプで電池の量を確認してください。）
3. 受信機のスイッチを入れる。
4. 送信機を動かし、各部の動きを確認、必要ならトリムで調整する。
5. 走行を終了した時は、必ず逆の手順で、受信機・送信機の順にスイッチを切る。

⚠ この手順は必ず守ってください。自分の送信機の電波が出ていない場合、他の電波を受け、RCカーが暴走することがあります。

RCカーを走らせる時の注意

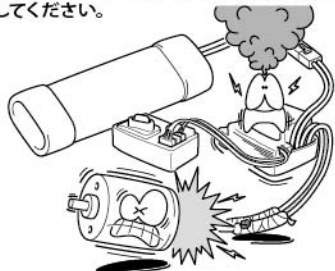
- 混信に注意してください。2.4GHzシステムはバンドを気にせず走行できますが、周囲の環境によっては影響を受ける、もしくは影響を与える可能性があります。そのような場合は一旦使用を中断して原因を取り除いてください。
- 人ごみの中や小さな子どものそばで走らせないでください。
- 道路では絶対に走らせないでください。
- 長時間使用しない時は、電池は取り出して保管してください。
- 送信機やRCカーには精密部品がおさめられています。水が入った時は誤作動したりこ

われたりするのですぐに乾かしてください。



ESCがこわれます。

- 配線コードのショートさせない。コードのビニールがむけてしまった場合は、ビニールテープをまいて中の金属線をカバーしてください。



- コネクタのつなぎ方に注意。コネクタはつなぎ方の向きが決まっています。つなぎにくい時は無理に押し込まずに

向きを確かめてください。向きをまちがえて無理に押し込むとESCをこわします。

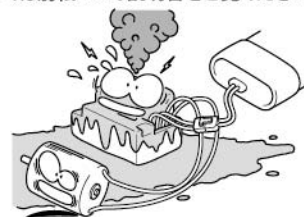
- 改造しない。指定バッテリー、モーター以外のバッテリー、モーターにつけかえるのはやめてください。ESCがこわれます。配線コードやアンテナ線を切ったり、ESC、コネクタ、サーボを分解したりするのはショートや故障の原因になりますのでやめてください。

- 取り扱いに注意。ESCやサーボ、送信機には精密な電子回路がおさめられています。内部に水が入ったり、湿気を吸ったりするとこわれます。また落としたりしないようにいねいに扱ってください。

- ESCのヒートプロテクトがはたらくと車は走らなくなります。無理な走行をした場合、ESCがこわれるのを防ぐためにヒートプロテクトがはたらいて、一

時的にモーターに電気が流れなくなります。

- ヒートプロテクトがはたらいたら。走っていた車が突然止まった時には、ヒートプロテクトがはたらいたことが考えられます。（この時はESC上部の放熱部が熱くなっているのかわからないでください。）すぐに受信機スイッチを切り、原因を調べ故障箇所を修理してください。15分ぐらいしたら受信機スイッチを入れてください。車は走るようになります。詳しくは別紙ESCの説明書をご覧ください。



送信機：FINESPEC 2.4G TTU-08
操作方式：ホイールタイプ2チャンネル
送信周波数：2.4GHz帯
電源電圧：6.0V（単3形電池4本）★アルカリ電池推奨
消費電流：150mA（MAX）
送信機アンテナ：内蔵

受信機：TRU-08
受信周波数：2.4GHz帯
電源：4.8～7.2V
寸法：27.0×37.7×17.4mm
重量：9.4g
注）BEC無

サーボ：TSU-03（アナログサーボ）
制御方式：パルス幅制御
動作角度：片側45度以上（トリム分を含む）
使用電源：4.8V～6.0V
消費電力：8mA（6.0V時）
出力トルク：3.5kg・cm（6V時）
動作スピード：0.17sec/60度
寸法：40.0×20.0×37.0mm
重量：37.0g

★この規格は技術開発に伴い予告なく変更する事があります。

TAMIYA



TBLE-04S

TAMIYA BRUSHLESS ELECTRONIC SPEED CONTROLLER 04S (SENSORED)

ブラシモード仕様 取扱説明書

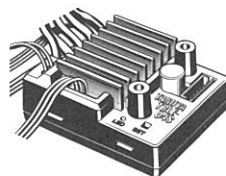
このたびはタミヤブラシレスESC04Sセンサー付 (TBLE-04S)をお買い上げいただきありがとうございます。TBLE-04Sは電動RCカー用に開発された15.5T (巻数) 以上のTBLMシリーズおよび25T以上のブラシモーターを制御できるスピードコントローラーです。ご使用前にこの説明書をよくお読みください。また本製品を安全にお使いいただくため、注意事項等は必ず守ってください。誤った使用での事故や故障は補償の対象外となります。

★ご使用前には《1.ハイポイント設定》を参照の上、お使いの送信機にあわせてハイポイントを必ず設定してください。

★デジタルサーボ等1.5Aを超える電流のサーボを使うとESCが故障することがあります。

《出荷時の設定》

モーター設定: ブラシモード
バック設定: ON
バッテリーカットオフ設定: Lo



《TBLE-04Sスペック》

ESCタイプ: 前進/バック/ブレーキ
連続最大電流: 75A 使用電源電圧: 6.6~7.2V
出力: 前進100% 後進50%
寸法: 41.5×33.4×18mm 重量: 47g
対応モーター: スポーツチューンモーター及び25T (巻数) 以上のタミヤ製ブラシモーター、15.5T (巻数) 以上のTBLMセンサー付シリーズ
受信機用BEC出力: 6V/1.5A

警告

以下の点に十分注意してください。故障の原因や保証の対象外となる恐れがあります。これらを守らないと、身の回り品の破損や、他人を傷つけたり、大怪我を負うことがあります。

- 本製品は地上用RCモデルを対象に製造されています。他の用途には使用しないでください。
- 受信機にESCとサーボのコネクターを確実に取り付けてください。走行中の振動でコネクターが抜けるとモデルが暴走することがあります。
- 雷の鳴っている時は走行させないでください。落雷の危険があります。
- 雨天や水たまりのあるところでは走行させないでください。機器に水が入り暴走することがあります。
- 浜辺などの塩水のかかる場所では使用しないでください。
- 走行しない時はバッテリーを外してください。誤ってスイッチが入った場合にモデルが暴走したり、火災の原因になることがあります。
- 送信機、バッテリー、モデル等は幼児の手の届かない場所に保管してください。ケガ、やけど、誤飲による中毒等の危険性があります。

注意

- 走行用のバッテリー、モーターの極性を間違えないように接続してください。ESCや受信機等の機器が破損します。
- 連続走行は避けてください。バッテリーコネクターが溶けることがあります。また走行後のモーター、ESCなど熱くなっているところには触れないでください。ヤケドをする事があります。
- バッテリーコード、モーターコード等の各コード類をショートさせないでください。RCメカやモデルが破損します。
- 本製品には精密な電子部品が使われています。強い衝撃を与えたり、内部に水が入ったり、湿気を帯びると故障の原因になります。
- 分解、改造はしないでください。また、指定のバッテリー、モーター以外は使用しないでください。RCメカの破損の原因となります。
- 道路や人の多い場所ではRCモデルの走行をしないでください。
- ブラシレスモードでブラシモーターを接続しないでください。またブラシモードでブラシレスモーターを接続しないでください。ESCが破損する恐れがあります。

《各部名称》

★必ず送信機の電源を入れた後に受信機スイッチを入れてください。電源を切るときは受信機スイッチを切ったあとに送信機の電源を切ってください。順序を逆にすると、受信機がノイズを拾いモデルが暴走して思わぬ事故の原因になります。

●ブラシモーターへの配線

ブルー = モーター: マイナス、-
イエロー = モーター: プラス、+
オレンジ = ★使用しません。

●ブラシレスモーターへの配線

ブルー = モーター: ブルー
イエロー = モーター: イエロー
オレンジ = モーター: オレンジ

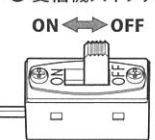
●バッテリーコネクター
指定バッテリー
※タミヤ走行用バッテリー

●受信機コネクター
★受信機の2 (CH.2)
につなぎます。

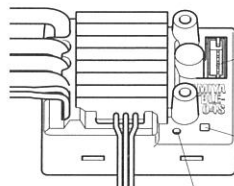
黒コード
白コード

※サンワやJRの受信機に接続する時は、受信機コネクターのツバをカットします。また、接続するときはコードを確認し、向きに注意してください。

●受信機スイッチ



※ブラシモーター
(別売)



●センサーコードコネクター
※ブラシレスモーター (別売)
のセンサーコード (別売) を取り付けます。

●セットボタン

●LED

★受信機スイッチをONしたとき、緑色に2回点滅すると出荷時の設定になっています。(ブラシモーター設定)

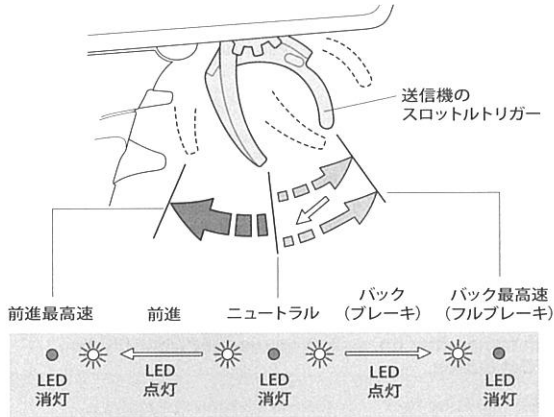
《注意》

★ESC、モーター、走行用バッテリー、配線コードといった大電流が流れている全ての場所ではノイズが発生しています。ノイズ発生源に受信機や受信機アンテナ線を近づけることはノーコン (制御不能) の原因になります。また

ESCと受信機、アンテナポストが密着したり、アンテナ線がESCの配線コードと交差しないように配置して搭載位置を決めてください。またカーボンシャーシや金属シャーシも電気を通しやすく、ノイズを拾い、誤動作が起きやすくなるので注意しましょう。

《スロットル操作とLED》

●送信機のスロットルトリガーがニュートラルの位置ではTBLE-04SのLEDは消灯状態、スロットルを引くまたは押すとLEDが点灯します。またスロットルトリガーが前進またはバックの最高速に達するとLEDは消灯します。



★注意：バック操作は一旦ブレーキをかけ、スロットルトリガーをニュートラルに戻してから再操作すると作動します。

《各種設定方法》

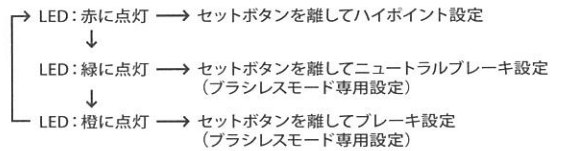
TBLE-04Siには2通りの設定操作があります。

★各配線後に各種設定を行います。車体を台に載せる、モーターのピニオンギヤを外すなどして誤動作での車体の暴走を防いでください。

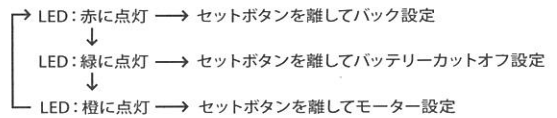
★BEEP音（確認、警告音）はモーターが接続されている場合に鳴ります。

A. 送受信機スイッチONの状態ですセットボタンを押して行う設定

●LEDは赤→緑→橙→赤…と順番に点灯を繰り返します。



B. 送信機スイッチONの状態ですセットボタンを押したまま受信機スイッチONして行う設定



A. 送受信機スイッチONの状態ですセットボタンを押して行う設定

★無信号状態（送信機スイッチOFFまたは受信機コネクタが外れた状態）、センサーエラー状態では設定できません。（無信号、センサーエラーの確認は《LEDの点灯パターン》を参照してください。）

《1. ハイポイント設定》（ブラシモード・ブラシレスモード共通設定）

送信機の信号を読み取りモーターの性能を最大限に発揮するために必ず最初に設定してください。

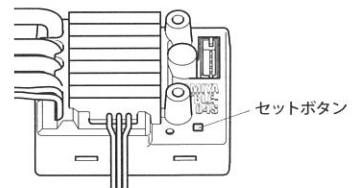
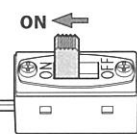
★送信機にABS機能やアクセルレーション機能がある場合は必ずOFFにしてください。

- ①送信機の電源をONして、受信機スイッチをONします。
 - ②セットボタンを押したまま、LEDの点灯を確認します。LEDは赤→緑→橙→赤…と順番に点灯を繰り返します。LEDが赤く点灯した時にセットボタンを離すと、LEDが赤の点滅に変わります。
 - ③スロットルトリガーを前進最高速位置にしてセットボタンを押します。信号の読み込みが成功するとLEDが赤2回点滅に変化します。
 - ④スロットルトリガーを後進最高速位置にしてセットボタンをもう1度押します。読み込みが成功するとLEDが消灯します。
- ★各ポイントを単独で設定することはできません。やり直す場合は①から再設定してください。
- ★設定途中で電源OFFした場合、設定ポイントは保存されません。前回のデータのままになります。
- ★送信機のスロットル設定を変更した場合は再度ハイポイント設定を行ってください。暴走する場合があります。

送信機スイッチ



受信機スイッチ



ブラシレスモード専用設定

《2. ニュートラルブレーキ設定》（ブラシレスモード専用設定）

スロットルトリガーをニュートラルにしたときのブレーキの効き具合を設定します。走行しながらフィーリングを確認し、操作しやすいように設定してください。ブラシモード時は設定できません。

- ①送信機の電源をONにして、受信機スイッチをONにします。
- ②セットボタンを押したまま、LEDの点灯を確認します。LEDが緑点灯しているときにセットボタンを離してください。LEDが緑の点滅に変わります。点滅の回数はブレーキの制動力を表します。下表を参照してください。

- ③セットボタンを押すたびに設定値が1つ上がります。（設定値10の次は設定値1に戻ります。）
- ④設定が決まったらセットボタンを長押しして、LEDが緑点灯になったらセットボタンを離してください。設定は完了です。

点滅回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
制動力%	0%	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%

※初期設定：点滅回数2 制動力5%

《3. ブレーキ設定》（ブラシレスモード専用設定）

ブレーキをかけたときのブレーキの効き具合を設定します。走行しながらフィーリングを確認し、操作しやすいように設定してください。ブラシモード時は設定できません。

- ①送信機の電源をONにして、受信機スイッチをONにします。
- ②セットボタンを押したまま、LEDの点灯を確認します。LEDが橙点灯しているときにセットボタンを離してください。LEDが橙の点滅に変わります。点滅の回数はブレーキの制動力を表します。下表を参照してください。

- ③セットボタンを押すたびに設定値が1つ上がります。（設定値10の次は設定値1に戻ります。）
- ④設定が決まったらセットボタンを長押しして、LEDが橙点灯になったらセットボタンを離してください。設定は完了です。

点滅回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
制動力%	55%	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%	100%

※初期設定：点滅回数10 制動力100%

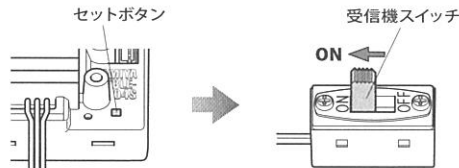
B. 送信機スイッチをONの状態ですらセットボタンを押したまま受信機スイッチをONにして行う設定

《4. バック設定》

(ブラシモード・ブラシレスモード共通設定)

バック走行の可否を設定できます。バック走行禁止レースなどで設定してください。

- ①セットボタンを押したまま、受信機スイッチをONにします。
- ②LEDが赤→緑→橙→赤…と順番に点灯を繰り返します。LEDが赤く点灯した時にセットボタンを離します。
- ③設定が完了すると一度LEDが消え、設定内容を表す点灯パターンが1回表示されます。※<<LEDの点灯パターン>>参照



★設定を行う毎に、バックのON/OFFが切りかわります。

《5. バッテリーカットオフ電圧設定》

(ブラシモード・ブラシレスモード共通設定)

バッテリーカットオフは走行用バッテリーを過放電から保護するための設定です。

LF、ニカドバッテリーを使用する場合は必ずLo設定にしてください。

- ①セットボタンを押したまま、受信機スイッチをONにします。
- ②LEDが赤→緑→橙→赤…と順番に点灯を繰り返します。LEDが緑に点灯した時にセットボタンを離します。
- ③設定が完了すると一度LEDが消え、設定内容を表す点灯パターンが1回表示されます。

※<<LEDの点灯パターン>>参照

★設定を行う毎に、バッテリーカットオフ設定のHi/Loが切りかわります。

★バッテリーカットオフ設定をHiに設定にすると走行時間が短くなる場合があります。

《6. モーター設定》(ブラシレスモード・ブラシモード共通設定)

使用するモーターを設定するモードです。モーターを変更する場合に設定してください。

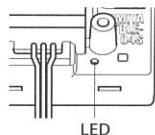
- ①セットボタンを押したまま受信機スイッチをONにします。
- ②LEDが赤→緑→橙→赤…と順番に点灯を繰り返します。LEDが橙に点灯した時にセットボタンを離します。
- ③LEDが橙→緑→橙…と交互点灯に変わります。ブラシレスモーターを使用するとき(ブラシレスモード)は橙、ブラシモーターを使用するとき(ブラシモード)は緑に点灯している時にセットボタンを押します。
- ④ブラシレスモードを選ぶとLEDが橙、ブラシモードの場合はLEDが緑に点滅します。設定するモードが正しければ、もう一度セットボタンを押します。設定を中止するときはセットボタンを押さず、受信機スイッチをOFFにしてください。
- ⑤設定が完了すると一度LEDが消え、設定内容を表す点灯パターンが1回表示されます。

※<<LEDの点灯パターン>>参照

《LEDの点灯パターン》設定の確認

受信機スイッチをONしたとき、LEDの色と点灯パターンでモーター設定、バック設定、バッテリーカットオフ設定の確認ができます。

モーター設定	LED
ブラシモード	緑
ブラシレスモード	橙



バック設定	バッテリーカットオフ電圧設定	LED (点灯パターン)		BEEP音
ON	Lo	緑1回点灯 →	1回点灯	🔊
OFF	Lo	緑1回点灯 →	2回点灯	🔊🔊
ON	Hi	緑1回点灯 →	長い1回点灯	🔊
OFF	Hi	緑1回点灯 →	長い2回点灯	🔊🔊

- 設定確認点灯後、LEDは消灯し、スロットルの操作に応じて点灯するようになります。
- BEEP音はモーターが接続されている場合に鳴ります。

《お使いの際には、以下の点に注意してください》

- ①モーター温度
ブラシレスモーターは、長時間高温状態で使用すると性能が低下することがあります。走行時のモーター表面温度は80℃以下を目安にしてください。ヤケドの危険があるので注意してください。
- ②進角調整
モーター標準の進角目盛り「2」程度がお勧めです。進角を多く(特に目盛りの最大値)つけると、異常電流、異常発熱の場合があり、モーターやESC、走行用バッテリーの故障の原因になります。
- ③車体のギヤ比や走行条件
進角調整の他にも、車体のギヤ比、重量、走行時の気温(路面温度)などの条件でも、異常発熱により故障や性能が低下することがあります。最初は負

荷の少ないギヤ比にしてモーターの温度が上がらないようにセッティングしてください。

- ④他社製プロポについて
本製品は他社製プロポの「ハイスポンズ設定」には対応していません。ノーマルモードに設定し直してください。お手持ちのプロポの取扱説明書も参考にしてください。

○送信機のスイッチをONにしないで受信機のスイッチをONにした場合(無信号)にモーターが接続されているとBEEP音が鳴ります。お使いの受信機のフェイルセーフがONの場合にはBEEP音は鳴りません。

《メカを守るための2つの機能》TBLE-04SにはESCを保護するため2つの保護機能を備えています。

温度保護機能: 連続走行や高負荷条件での走行によりESCが異常発熱すると、モーターを停止して損傷を防ぎます。しばらく休ませてESCの温度が下がれば自動復帰します。

過電流保護機能: モーターのショートやロックなどにより、過電流がESCに流れた際に、自動的にモーターを停止します。自動復帰はしませんので故障箇所を点検修理してから送信機スイッチ、受信機スイッチを入れなおしてください。

《トラブルチェック》★おかしいな?と思ったらときは修理に出すまえに、下の表を参考にトラブルチェックを行ってください。

症状	LED	原因・対策
モーターが回らない	赤、緑の交互点灯	ブラシモードでブラシレスモーターとセンサーコードが接続されています。ブラシレスモードでセンサーコードが接続されていません。接続してください。断線している場合は交換してください。ブラシレスモーターがロック状態で動かない状態になっています。
	赤の遅い点滅	温度保護が働いています。ESCの温度が下がれば復帰します。頻繁に温度保護がかかる場合はギヤ比やESCのクーリング、モデルの回転部分がスムーズに動いているか確認してください。
	赤の速い点滅	過電流保護機能が作動しています。電源を切り、コードのショートやモーターのロック等の原因を取り除いてください。
	赤の点滅	バッテリーカットオフ機能が作動しています。バッテリーを充電してください。
	緑または橙の点滅	送信機の信号が入力されていません。送信機の電源、受信機とESCの接続、バンド、ヘアリングなどを確認してください。
操作と違う動きをする	LEDは正常	ハイポイント設定のミス、またはハイポイント設定後に送信機の設定が変更されている可能性があります。また送信機を変えた場合はハイポイント設定をやり直してください。
バックしない	LEDは正常	ハイポイント設定のミス、またはハイポイント設定後に送信機の設定が変更されている可能性があります。また送信機を変えた場合はハイポイント設定をやり直してください。バック設定がOFFになっていないか確認してください。

★修理依頼されるときは

もう一度説明書をお読みいただき、チェックをしてください。故障状況を詳しくお書きいただき、製品と共に当社カスタマーサービスまでお送りください。症状がわかることで、修理が早くなります。

株式会社タミヤ カスタマーサービス

《お問い合わせ番号》

静岡 054-283-0003

東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)

